

冷たい風の中にも柔らかな日差しが注ぎ、春の訪れが感じられる季節となりました。

三年間という、長いようで短かった高校生活の終わりを告げるこの日に、この場に立てていますことを、心から喜ばしく思います。本日は私達237名のために、このような素晴らしい式を挙行していただき、誠にありがとうございます。そして、先生方、ご来賓の皆様、在校生の皆さん、保護者の皆様にご臨席いただいたことに、卒業生一同、厚く御礼申し上げます。皆様からいただいた温かい言葉を胸に、本日、私達卒業生は新たな一歩を踏み出します。

3年前に、新たな環境で待ち受ける日々に胸を膨らませながら入学してきたあの日から、月日はまたたく間に過ぎ去っていきました。使う教材の量が徐々に増えていったこと、「先輩」と呼ぶ回数が減り、そう呼ばれる回数のほうが増えていったこと、新品だったはずのスリッパの底がすり減っていたこと。高校生活が終盤に近づいているのに気づくたびに感じた焦燥感も、もう今日で終わりだと思うと、なんだか名残惜しいです。

高志高校で過ごした3年間で、私はたくさんの学びを得ることができました。普段の学習で得た知識はもちろんのこと、遠足や合唱コンクール、体育小会といった年間行事を通して、自分たちだけで何かを計画したり、協力して何かを成し遂げようとしていくことの、難しさや楽しさを学ぶことができました。

私が高校で得た最上の学びは何だったのか。その前に、まずは、私にとって印象深かった3つの思い出についてお話ししたいと思います。

1つ目は、研修旅行です。生徒一人ひとりが行きたい場所を選択し、およそ一週間、友達とともに旅をして様々な体験をするというのは、これ以上ないほど楽しく、心躍るものでした。私達にとっては新型コロナウイルスの流行が収まって以降、学校行事としての初めての本格的な遠出だったということも、楽しみを倍増させました。それぞれがそれぞれの場所で、新しい体験をしたり、新たな知見を得たり、新たな出会いをしたりと、どの生徒にとっても充実した旅になったのではないのでしょうか。私は、南半球の環境に興味があったためオーストラリアに行きましたが、大陸本土から島に向かうため海を渡っていたときに、フェリーの上で潮風に吹かれながら見た、紫がかった夕日の壮大で幻想的な美しさは今でも心に残っています。その他にも、ブリスベンの市内を巡ったり、現地の高校生や大学生と交流したり、カンガルーやコアラなど日本ではなかなか見ることのできない動物に触れたり、様々な経験をすることができました。自分の知らなかった世界で過ごせたことは私にとって大きな刺激となり、将来は今よりももっと広い世界を舞台に活躍したいと思うようになりました。研修旅行は私達にとって、間違いなく貴重な時間だったと思います。

2つ目は、今年度の学校祭です。今年の学校祭のテーマは「煌志繚乱～The Spring of Our Life～」でした。私達三年生にとっては最後の学校祭であったため気合の入っている人が多く、今までにない熱気を感じることができ、それだけで気持ちが高ぶりました。学校祭期間を通して、異なるクラス・学年の生徒や、同学年でも全く話したことがなかった人たち同士が、優勝、最優秀賞獲得という一つの目標のもとに団結して全力で活動に励んだことは、多くの人にとって、とても新鮮で特別な経験だったと思います。私個人としては、運営や部門リーダーなどの仕事に追われて大忙しでした。三年生になれば学校祭を仕切ることになり、やるべきことが増えて責任が大きくなるのは百も承知していましたが、リーダーとして多くの人をまとめたり、ゼロから一つのもを作り上げたりするのは、予想以上に大変でした。大変だったけれども、熱狂に渦巻いたフェニックスホールや、年に一度の祭典のために彩られた校舎、そして真夏の太陽が容赦なく照りつける校庭で、「煌志繚乱」のテーマに共鳴するかのように、それぞれの思いが入り乱れ、何物にも代えがたい鮮烈な輝きを放っていた様子は皆さんの心に強く残っていることと思います。うまくいかないことも多くて苦しんだ時期もありましたが、困難にぶつかるたびに仲間と協力したり、家族や先生方に相談したりしてなんとか乗り越えていくことができました。学校祭を辛い思い出ではなく、最高の思い出として振り返ることができるのは、支えてくださった皆さんのおかげです。今思えば、学校祭期間は、私がこれまでで人として最も成長できた期間だったと感じます。

3つ目は、生徒会での活動です。私達の代の生徒会は、体育館に空調設備がほぼなく夏に部活動が十分に行えないという状況を改善するための活動を、多岐にわたって進めてきました。その代表が、簡易的な空調設備購入のためのクラウドファンディングです。これは高志高校の生徒会にとって革新的な取り組みで、最初はうまくいくのか不安でした。寄付を募るためにこの活動の認知度をどう上げればよいか、ということに特に頭を悩ませましたが、生徒会の仲間と協力して、高志高校の卒業生が集まる同窓会であるみどり葉会や福井県内の高校の生徒会による交流会に参加して活動の紹介をしたり、生徒会新聞やチラシを使って学校で広報活動をしたりするうちに、徐々に成果が出ていることを実感するようになりました。最終的に106万円ものお金を集めることができたときの喜びは格別で、協力してくださった皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいになりました。第2体育館の空調設備は来年度以降導入予定と伺っていますので、在校生の皆さん、是非活用してください。行動を起こし、地道な作業を続けることの大切さや協力の生み出す力の大きさを学び、そして、自分たちの訴えに賛同してくれる方々や高志高校のことを思ってお下さる方々の存在の大きさを感ずることができたこの活動に関われたことは、私にとって一生の財産となりました。

私はこの3つの出来事からかけがえのない学びを得ることができました。これらに共通していることは、「新しいことに飛び込め」ということです。研修旅行で新しい

環境に身を置かなければ、あの紫色の夕日が私に世界の広さを教えてくれることはありませんでした。学校祭で運営やリーダーなど、たくさんの新しいことに取り組まなければ、今までに経験したことのない困難に直面したときに、それを乗り越える方法を知ることはありませんでした。生徒会での活動が無ければ、物事を成し遂げるために必要な力がなにかを見つけることもありませんでした。新しいことを体験すれば、必ず自分の人生に有益な何かを手に入れられると思います。良い経験であったならそれで得た学びや刺激を大切にすればよく、結果的に良くない経験だったとしても、その教訓を反面教師として自分の人生に活かすことができます。どちらであっても自身の経験値が上がり、成長することができるのです。

在校生の皆さん、これからぜひ、どんどん新しいことに触れていってみてください。特別意気込んで大きなことに挑戦しようとしなくても、ただ、新しい環境に身を置いてみるだけで、自分の人生にプラスとなるなにかを手に入れることができるでしょう。皆さんのご活躍を心からお祈りしています。

同級生の皆さん。3年間、または6年間、本当に楽しかったです。みなさんと一緒に高校生活を過ごし、今日この場をともにすることができて、とても嬉しく思います。卒業してしまう寂しさはありますが、これから新しい場所で輝けるよう、それぞれ頑張っていきましょう。

先生方。先生方の支えがあったからこそ、私達はここまで成長することができました。ご迷惑をおかけしたことも多々あると思いますが、いつだって私達とまっすぐ向き合ってくださったことには感謝してもしきれません。

家族のみんな。毎日お弁当を作ってくれたり、送り迎えしてくれたり、私達の高校生活を支えてくれてありがとう。家族がいたから頑張れたこと、家族がいたから乗り越えられたことが本当にたくさんあります。まだまだお世話になることもあると思いますが、新しい一歩を踏み出す私達を、どうか温かく見守っててください。

結びに、今まで私達の学校生活に携わってくださったすべての方々に御礼申し上げますとともに、高志高校・中学校のますますの発展を心より祈念し、答辞といたします。

令和7年3月4日 福井県立高志高等学校 第76回卒業生代表 大野 未愛